

# 再生可能エネルギーの 全量買取制度 (FIT) 制度設計の論点

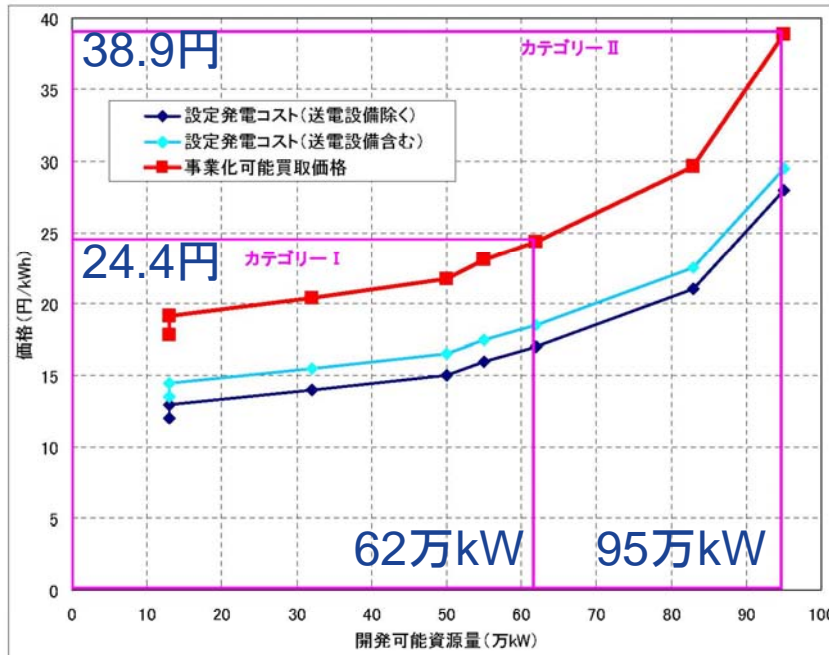
2010年12月14日 固定価格買取制度シンポジウム  
日本地熱開発企業協議会

# 地熱発電の特長

- ❁ 24時間・365日安定した出力で発電
- ❁ 設備利用率は平均73% (18地点43年間)  
原子力発電を上回る  
太陽光の6倍、風力の3.5倍の発電量
- ❁ CO2排出量は風力の1/2, 太陽光の28%
- ❁ 世界第三位のポテンシャル
- ❁ 蒸気タービンは世界の70%のシェア占有

# 価格と期間

開発可能資源量と価格(補助金なし)



発電コスト範囲 (補助金なし) 15年平均 円/kWh	開発可能 資源量 kW	設定発電コスト (送電設備除く) 15年平均 円/kWh	設定発電コスト (送電設備含む) 15年平均 円/kWh	事業化可能 買取価格 15年平均 円/kWh	CO2排出 削減量 万t-CO2/年
11~12	130,000	12.0	13.5	17.8	87
12~13	0	13.0	14.5	19.1	0
13~14	190,000	14.0	15.5	20.4	128
14~15	180,000	15.0	16.5	21.7	121
15~16	50,000	16.0	17.5	23.1	34
16~17	70,000	17.0	18.5	24.4	47
19~21	210,000	21.0	22.5	29.7	141
21~28	120,000	28.0	29.5	38.9	81
計	950,000	-	-	-	639

15年間

24円/kWhで16地点  
62万kW、

20円/kWhで8地点  
32万kW

が開発可能、

15円/kWhで

開発可能地点無し

# 価格以外の論点

- ❁ FITは開発段階以降の事業安定性を保証
- ❁ 調査段階は地熱開発促進調査補助事業で地下資源リスク軽減が必要
- ❁ 既設には減価償却を考慮した買取価格が実現するまでは補助金が必要
- ❁ 地熱蒸気と電気の価格配分を決める必要
- ❁ FIT万能ではない。規制緩和(自然公園法、温泉法、森林法、電気事業法)など関連する施策の推進によるバックアップが必要